

令和6年度 学校経営計画書

学校名 三次市立作木中学校

校長名 米丸 康司

I 学校の状況

学級数	4学級	生徒数	26名	教職員数	12名
メールアドレス	sakugi-j@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/sakugi-j/				

II 学校教育目標

<p><作木中学校区小中一貫教育目標> ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる児童生徒の育成</p> <p><三次市立作木中学校 学校教育目標> 「自律」・「協働」・「挑戦」 ～ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる生徒の育成～</p> <p>自律とは 主体性の育成 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学びをまとめ振り返り、次の学習につなげること</p> <p>協働とは 社会性の育成 ・自分のよさや可能性を認識し、他者を価値のある存在として尊重し、同じ目的に向かって、それぞれの良さを発揮しながら、協力して取り組むこと</p> <p>挑戦とは 創造性の育成 ・自分の願いをもち、その実現のために意欲的に取り組む強い意志と実践力のこと</p> <p><めざす生徒像> ・基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒 ・しっかり考え判断し、表現できる生徒 ・課題解決に向けて、他者と協働し、粘り強く主体的に取り組む生徒 ・自己理解を深め、他者を大切にしたい行動ができる生徒</p>

III 使命・存在意義（ミッション）

<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを創造し、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>(2) 作木中学校区の特性を生かした特色ある教育活動を推進することで、ふるさと作木を愛し、地域の将来を担う生徒を育成する。</p> <p>(3) コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働し、生徒の成長を支える学校。</p>

IV 重点事項（努力点）

<p>学校教育目標の実現のために、次のような資質・能力の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 知識・技能<ul style="list-style-type: none">・各教科の基礎的・基本的な知識及び技能の定着○ 思考力・判断力・表現力<ul style="list-style-type: none">・様々な情報や根拠をもとに、しっかり考え判断することができる。・自分の考えや思いを相手に応じた表現を用いて分かりやすく伝えることができる。・他者の考えを受け入れ、他者と協働し、課題を解決することができる。○ 学びに向かう力<ul style="list-style-type: none">・日本や世界の魅力や問題に目を向けつつ、自分や身近な人が関わる課題に対して見通しを持って粘り強く取り組むことができる。・自分の学び方を理解し、自らの学習を調整することができる。○ 自己理解<ul style="list-style-type: none">・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重することができる。・自分の言動が相手に及ぼす影響が分かる。・自分の悩みを話せる人を持つ。

V 中心価値・行動規範

全教職員が遵守すべき規範・行動指針はつぎの通りです。

【チームで信頼される学校づくり】

- (1) 生徒の心に寄り添い、信頼される教職員になります。
- (2) 目的達成のため組織的・協働的に動く教職員になります。
- (3) 自ら学び続け、新たなものに積極的に挑戦する教職員になります。
- (4) 教育公務員としての自覚と誇りをもち、保護者・地域と協働して、生徒と共に夢の実現にチャレンジする教職員になります。

VI 現状分析

◆確かな学力

令和5年度三次市学力到達度検査 ※ () は全国平均との差, 【基礎】【活用】は全国平均との差

<新2学年>

・国語	53.2	(- 8.8)	【基礎】	-10.0	【活用】	- 6.5
・社会	56.1	(- 2.7)	【基礎】	- 1.6	【活用】	- 5.7
・数学	38.8	(-14.9)	【基礎】	-17.4	【活用】	- 7.1
・理科	54.8	(- 6.0)	【基礎】	- 8.2	【活用】	- 1.3
・英語	37.9	(-16.3)	【基礎】	-15.1	【活用】	-18.8

<新3学年>

・国語	62.0	(- 5.8)	【基礎】	- 5.3	【活用】	- 6.7
・社会	39.2	(- 6.0)	【基礎】	- 8.2	【活用】	- 0.3
・数学	34.4	(-15.7)	【基礎】	-13.7	【活用】	-21.6
・理科	58.1	(+ 1.1)	【基礎】	- 3.1	【活用】	+10.4
・英語	43.5	(- 6.0)	【基礎】	- 4.9	【活用】	- 8.0

- 新2学年はすべての教科で全国平均を下回っている。特に、数学、英語が課題である。新3学年は、理科が全国平均を上回っているが他の教科は下回っている。特に数学が課題である。平均して、新2年生は9.7ポイント、新3年生は6.5ポイント全国平均を下回っている。
- 新2学年は、「学校の授業はどの程度分かりますか」の設問に、よく分かる41.7%、だいたい分かる41.7%であった。新3年生は、よく分かる25%、だいたい分かる25%であった。両学年とも、分からないことが多いと回答する生徒は0%であった。授業内容が概ね分かったつもりになっているが、深い理解や学習内容の定着に課題がある。
- 平日の家庭学習が、30分未満の割合は両学年ともに25%であった。また、家庭学習が習慣化できていない生徒も固定化している。教育相談を充実させ、自分なりの家庭学習の方法を見つけさせる必要がある。

◆豊かな心

「自分には、いいところがあると思いますか。」への肯定的回答 (令和5年度「i-check」)

<新2学年> 76.9% (全国66.5%) <新3学年> 60.0% (全国66.1%)

「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。」への肯定的回答

<新2学年> 100% (全国89.3%) <新3学年> 100% (全国88.4%)

「自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか。」

への肯定的回答

<新2学年> 92.3% (全国54.7%) <新3学年> 80.0% (全国54.3%)

- 自己肯定感に関する肯定的な回答については、新3学年「自分には、いいところがあると思いませんか。」の項目は全国平均を下回っている。それ以外の項目については全国平均を上回っており、教育活動全体を通して、生徒の主体的な活動を意図して取り組んだ成果が表れている。
- 令和5年12月に実施した生徒アンケートから、「学校生活は充実している」の肯定的回答は100%、「授業に満足している」は92.8%であった。
- 生徒アンケートから「道徳の時間」における授業満足度は82.2%であり、昨年度(94.0%)より下がった。今後、道徳教育推進教員を推進役として、授業改善を進め、心に響く授業づくりを行っていく必要がある。

◆健やかな体

- 令和5年度「新体力テスト」の結果から、全国・県平均を上回っている割合は、新2学年39.4%、新3学年52.2%であった。特に、スピードや瞬発力に関しては、全国・県平均を下回る生徒の割合が半分以上になっており課題である。
- 全校での早朝練習や駅伝練習の取組は、6月中旬から10月中旬に実施し、持久力の向上が見られる。校内駅伝大会の実施、三次駅伝への女子の部に参加することができ、生徒たちは充実感や達成感を得ることができた。体力向上の取組については検討が必要である。
- 保健体育科の授業において、単元に関わる体力づくりトレーニングを行うとともに、部活動において、体力づくりに関するメニューを工夫し、生徒が主体的に取り組めるようにしていく必要がある。

◆信頼される学校

- 令和5年12月に実施した保護者アンケートから、「作木中学校の教育に満足している」の肯定的回答は90.9%であった。授業参観や学校行事に参加できるようになったことが大きい。今後、生徒の学ぶ姿をしっかりと見せることが必要と考えられる。
- 令和5年12月に実施した生徒アンケートから、「作木に愛着を感じ、誇りに思う」の質問に対し、「とてもあてはまる」は60.7%、「ややあてはまる」は32.1%であった。「とてもあてはまる」の生徒の割合を70%以上にすることをめざし、伝承活動や地域と共に行える活動を通して、生徒の活動場面の確保や活動の質の向上を図ると共に、適時な評価・指導で生徒の自信と誇りを高めていきたい。
- 保護者・地域共に学校の教育活動推進に協力的である。コミュニティ・スクール(2年目)の推進を通して、地域の豊かな人材や教育資源のさらなる活用を通して、地域と共に教育内容を創造し、発展させることを目指していく。
- 令和5年11月に実施した職員アンケートから、「子供と向き合う時間が確保されている」の肯定的回答は73%、「自分は業務改善を進めることができた」の肯定的回答は55%であった。退校時刻19時は定着している。持ち帰り仕事が増加しており、教材研究の時間の確保が継続的な課題である。